なるべし、

〔百練抄五 堀河〕寛治四年七月廿三日、賀茂上下社被奉不輸田六百餘町、爲御供田、近日稱有夢想、供御膳、依神稅不足也、又分置御厨於諸國、俗諺曰、將亡聽政於神、此謂也、

〔太平記九〕足利殿御上洛事

其後舍弟兵部大輔直義足利殿ヲ被呼進テ、此事可有如何ト意見ヲ被訪ニ、且ク思案シテ、被申ケルハ、今此一大事ヲ思食立事、全ク御身ノ爲ニ非ズ、只天ニ代テ無道ヲ誅シ、君ノ御爲ニ不義ヲ退ン ト也、其上誓言ハ神モ不受トコソ申習ハシテ候ヘ、設ヒ僞テ起請ノ詞被載候共、佛佛ナドカ忠烈ノ志ヲ守ラセ給ハデ候ベキ、

〔關八州古戰錄十七〕秀吉公湯本著陣事

秀吉公四月朔日ノ黎明ニ、三島ノ驛ヲ出馬シ給ヒ、足柄筥根ヲ越テ、小田原ノ城ヨリ行程半里コナタ湯本ノ眞覺寺ヘ著陣マシ〳〵、先隊ノ勢ヲ分テ、湯本口、竹ガ鼻口、畑湯坂、塔峯、松尾嶽邊ヘ指向ケ指向ケ攻立ラレケレバ、持口ノ寄合勢臆病神ニヤ引レケン、或ハ見崩シ、聞崩シテ、片端ヨリ開ケ退テ、小田原ノ本城ヘ蒼ミシカバ、〇下略

〔徒然草上〕妻といふものこそ男のもつまじきものなれ、〇中略ことなることなき女をよしと思ひ定めてこそそひ居たらめど、賤しくもおしはかられ、よき女ならば、この男こそうたくして、あが佛とまもりゐたらめ、

〔室町殿日記八〕義昭公南都を落給ふ事

一去程に、長慶入道計略をめぐらしけるは、他家をむかひに參らせたる分にては、推すかし給ひて、出給ふまじ、所詮の人をもつて、よびのぼせたてまつらんとおもひて、上野民部少輔と、長岡兵部大輔藤孝兩人を尋出して申けるは、數年の遺恨によつて、公方をほろぼし奉る、今ははや義昭